

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第587号 2018年9月9日

聖母被昇天ミサ

8月15日（水）9時30分より、山手教会聖堂で聖母被昇天ミサがラファエル梅村昌弘司教主司式、谷脇慎太郎師、鈴木真師による共同司式にて執り行われ、ミサの中で「平和を願う祈り～アシジの聖フランシスコの祈りより～」が唱えられました。

梅村昌弘司教説教（抜粋）

今年は、マリア様に関して喜ばしいことが一つあります。マリア様の祝日が一つ増え、聖霊降臨の翌日に教会の母であるマリア様を今年から祝うようになりました。2月19日のルルドのマリア様の祝日のときに、フランシスコ教皇様が教令を出されて「毎年聖霊降臨の翌日に教会の母であるマリア様をお祝いいたしましょう」との呼びかけがなされ、実際に今年から祝うことになりました。その大きな理由として、第2バチカン公会議後、ヨハネ23世教皇様から引き継がれたパウロ6世教皇様の意向を受けたものであることをフランシスコ教皇様はご自身で言われました。第2バチカン公会議において、マリア様については教会に関する公文書である教会憲章という公会議文書の中で取り上げられています。公会議では、マリア様を通して教会のあるべき姿を見出すことができます。パウロ6世教皇様は、マリア様の「教会の母」としての称号を大切にするように言われました。そのことをフランシスコ教皇様は、新たな祝日を設けることにより引き受けられたということ

だと思えます。

ヨハネ福音書のイエズス様の受難の場面では、十字架のもとには愛する弟子ヨハネやマリア様の他に婦人たちが控えていました。イエズス様は、まずマリア様に「婦人よ、ご覧なさい！あなたの子です」そして、さらに愛する弟子ヨハネに「見なさい！あなたの母です」と言われました。ここからも、教会の母としてのマリア様の称号が聖書的に由来していることが端的に分かると思えます。マリア様には、そうした意味で新たな使命が与えられたのかもしれませんが。まさに十字架の上で息を引き取られる前に、イエズス様を通して今度は教会の母としての使命を与えられたということでもあります。

フランシスコ教皇様は、ヨハネ福音書の冒頭にある「カナの婚宴」の出来事を引き合いに出されて、「『マリア様は、わたしたちの人生の同伴者です』、わたしたちの生活にブドウ酒が足りなくなることがないようにとの温かい心遣いを、わたしたちにも示してくださいませ」と言われました。「わたしたちが願う前に、マリア様がわたしたちそれぞれの困難を察して、温かい心遣いを示してくださいませ」とフランシスコ教皇様は言われたのだろーと思えます。マリア様の被昇天を祝う中で、教会の母であるマリア様をもって、わたしたちが人生の途上にあって十字架を担いきることができるように願いたいと思えます。